

2019年度 事業報告

(2019年4月1日～2020年3月31日)

**【総括】**

WS事業自主事業では、ことばキャンプ教室が10教室→12教室と、前年度より2教室増えた。参加者のリピート率が上がっていること、インストラクターが増えたこと、マスコミ等に登場し広報活動の成果で少しずつ社会的認知が広がっていること、が要因として挙げられる。

社会貢献事業では、神奈川ボランティア基金21協働事業負担金事業、メリルリンチ社会貢献事業などを行った。神奈川県子ども家庭課との協働事業であるボランティア基金21事業は、5年間の最終年度を迎えイベントを行った。団体の社会貢献は、児童養護施設、母子生活支援施設、里親、ひとり親支援と、社会的養護の子どもたちへの支援や貧困家庭への支援と活動が広がっている。

人材育成事業は、インストラクター養成講座を実施し、5名のインストラクターが誕生し、8名が更新した。ジョンソン・エンド・ジョンソンプロジェクト事業が3年目の最終年度となり、5月10日にイベントを実施した。

2月からの新型コロナの自粛を受けて教室を閉鎖したり、開催を予定していた研修が中止となったり、イベントの実施がオンラインで開催するなどの影響を受けた。

2019年度は、2回の大きなイベントのほか、社会的養護の子どもたちへの支援がひとり親支援へと活動が広がっている。また養成講座の実施、教室運営のサポート、人材育成事業の拡大を進めてきた。

しかし、それを実施する業務が増え、運営や実施者としての仕事がマックスとなり、すべての事業が中途半端という不全感を感じた年であった。運営を担う事務の人材や事業を担う人材が増え、基盤を固める方向にはなっているものの、事業規模が大きくなっていることを考えると、まだ運営を支える人材は十分とは言えない。

団体のビジョンを遂行するための事業運営の柱を、助成金から自主事業に軸足を置き事業を運営するための資金を調達できていないことが課題である。

# 1 事業

## I WS事業

### ○自主事業

#### 一般向け教室

本部教室(4) 馬車道教室(9) 新宿教室(2) 田町教室(2)

外部教室(7) 飯田橋教室(2) 渋谷教室(2) 府中教室(2) 高槻教室(2) 京都四条教室(2)

新百合ヶ丘教室(2) 湘南台教室(1)

本部教室は3教室(13クラス)を運営している。インストラクター3名、シニアインストラクター1名認定インストラクターが運営している外部教室は、7教室(13クラス)。低学年クラス、高学年クラスの2クラスを運営しているインストラクターが多い。外部教室の運営が統一され、教室運営マニュアルも整備された。

## 企 業

- CTW ゴールドマンサックス本社でのフィールドトリップ（1）  
おさん（横浜）での CTW にインストラクター派遣（1）  
ファミリーサポートプログラム プログラムはできたが、企業アプローチに課題がある。

## 児童養護施設

神奈川ボランティア基金 2 1 協働事業負担金事業で基盤を作った。

## 里親会

- 里親会イベント（1）  
高校生プログラムの提供（2）

## その他

- 中堅福祉職員研修（1）

## ○社会貢献事業

### 神奈川ボランティア基金 2 1 協働事業負担金事業

- ① 自立支援プログラム実施事業 小学生,中高生ことばキャンプ 4 施設
- ② 職員研修事業 2 施設
- ③ サポーター養成事業 4 回
- ④ 効果検証事業 職員研修の効果検証

最終年度になる本事業は、5 年目のまとめとして 10 月 14 日横浜情報文化センターにて、シンポジウムを行った。県内外から 100 名の参加者があった。シンポジウムの告知、実施にあたってスタッフやインストラクターの協力で実施できたと言える。イベントにより弊団体の事業の認知が、県内外に広がった。

本事業の目標であった「研修として商品化」に関しては、昨年依頼を受けて職員研修を中心としたコンサル業務を行った 1 施設から、次年度の職員研修の依頼をいただいた。2 施設にも打診しており、検討中。

5 年間でまとめた「神奈川県の子どもの自立支援事業」事業報告書を作成した。  
(600 部)

### メリルリンチ 社会貢献プロジェクト プロジェクトリーダー：大野

- ① 児童養護施設でプログラム実施（3 施設）
- ② 貧困家庭支援団体でのプログラム実施（2 施設）
- ③ 夏休みに児童養護施設の児童が ML 本社で社員ボランティアと共にワークをする。（2 施設）
- ④ 報告書作成 600 部

東京都の施設で久しぶりに実施し、つながりを取り戻すことができた。

「ひとり親」支援が実施できたことは新しい社会貢献と言える。ひとり親へのアプローチが難航したが、プロジェクトリーダーの尽力により実施できた。ただ、「貧困家庭への支援」と企画書の文言で依頼文を送ってしまったことは、外部文書の送付は慎重にすべきこと反省。

ML 本社で社員ボランティアと一緒に「フィールドトリップことばキャンプ」は新型コロナウイルス拡大のため中止となった。

## II 人材育成事業

### ○自主事業

#### 養成講座

- ① インストラクター養成講座（低学年カリキュラム、親講座の履修）  
オンライン説明会（毎月 1 回）  
横浜本部スクーリング 春期（2 名）、秋期（2 名）  
オンライン養成講座 9 月期（1 名）
- ② オプション養成講座  
高学年カリキュラム 10 月、3 月（4 名）  
幼児カリキュラム 10 月～11 月（4 名）
- ③ ブラッシュアップ講座（更新要件）スクーリングとオンラインで実施  
2019 年度の更新インストラクター 8 名、休会中のインストラクター 12 名  
スクーリング 10 月（4 名）  
オンライン 11 月、1 月（4 名）  
親講座改定に伴う補講（16 名）  
インストラクターの更新について整備された。（担当 久保）
- ④ 絵本サポーター養成講座  
スクーリング 9 月（2 名）  
スクーリング 3 回、オンライン 3 回予定していたが、受講希望者なしのため 5 回中止。
- ⑤ RSC クリエイター養成講座  
スクーリング 1 回を予定していたが、受講希望者 1 名のため、中止。

### ○社会貢献事業

#### ジョンソン・エンド・ジョンソンプロジェクト 最終年度

認定インストラクターの養成、イベントの実施、報告書の作成

- ・関東、関西、中部で、パートナー団体および個人のインストラクターに対し、養成研修を 16 回実施、現場研修を 4 回実施
- ・5 月 10 日に「全国の子ども達にことばキャンプを！～児童養護施設に暮らす子ども達のコミュニケーション育成報告会～」を青山学院大学でイベントを実施するべく準備をしていた。（チラシ添付）  
しかし新型コロナウイルスによる自粛要請を受けて、オンラインで実施した。  
準備期間が 1 か月だったのにもかかわらず、基調講演の古荘純一先生、施設長の皆様、スタッフたちの協力で大きな内容の変更なく、10：30～15：00 の長時間のイベントをオンラインで届けることができた。  
全国から視聴者があり、当日は 220 名。その後 1 週間の限定録画配信では、1500 名余の視聴者があった。  
オンライン配信をしたメリットとしては、①全国から視聴者があり、影響が広がっている。②スタッフの協力が得られた。インストラクターの参加コーナーを設けたので参加意識が高くなった ③オンライン

配信の流れができた。

### Ⅲ リサーチ事業

なし

### Ⅳ 情報発信事業

なし

## 2 管理部門

#### 事務、管理、営業、会計、プロジェクト運営

管理、運営：高取、菅澤、獅子倉

事務・チラシ作成：中嶋

会計、事務：前園、金子

メルマガ配信、インストラクター管理：久保

プロジェクト担当：大野（ML）金子・村上（シンポジウム）

児童養護施設高校生アルバイト

#### 広報・メルマガ配信

社会的発信 高取

メルマガ（月2回）高取・久保

SNS 発信：村上

#### 専門職への委託業務

税理士 本郷先生

司法書士 塚原先生（単発契約）

HP オフィスジータ

映像 一二三